

令和6年度黒川里山センター 運営業務モニタリング（外部評価者記入用）

No.	項目		内容	確認方法 及び 頻度		市評価	備考
1	基本項目	運營業務報告	・運營業務年間計画書の作成・提出	年間計画書	定期（年次）	適合	
2			・自主事業企画書の作成・提出	年間計画書	定期（年次）	適合	
3			・自主事業の開催	年間報告書	定期（年次）	適合	
4			・実施体制及び運營業務従者等の選任、報告	年間計画書	定期（年次）	適合	
5			・年間報告書の作成、提出	年間報告書	定期（年次）	適合	
6			・月報の作成、提出	月次報告書	定期（月次）	適合	
7			・使用料月次報告書の作成、提出	月次報告書	定期（月次）	適合	
8		非常時・災害時の対応	・非常時、災害時対応マニュアルの作成、更新 （他、維持管理業務における考え方に準ずる）	-	随時	適合	
9		個人情報の保護	・個人情報の保護、管理マニュアルの作成、更新 （市条例の考え方に準ずる）	-	随時	適合	
10		市への協力	・市が実施する事業への積極的な支援、協力	年間報告書	定期（年次）	適合	
所 見							
A基本項目につき、市評価がすべての項目に渡り適合となっており、概ね良好である。 B概ね良好である。 C委託事業や自主事業について、黒川里山センター周辺（屋外）での様々な講座やイベント企画のバリエーションの豊富さと実施には、素晴らしいものがある。1つの講座や企画は少人数ではあるが、着実に里山センターのファンの増加と定着が見込まれると考える。一方で、里山センター内の施設の利用状況に 関して、冬季の貸室利用者数は低迷している。また、事業収入については、増加されたほうが良いと思われる。							
改 善 項 目							
A非常時・災害時の対応について、全国でクマ、猪等の出没が頻繁になり人間の生活圏に入り込むようになってきている。また、近年は気象の急激な変化による災害も起こっており、こうした事を踏まえて一歩踏み込んだ当該マニュアルの整備が必要と思われる。 B特になし。 C黒川里山センターの施設利用については、冬季の利用が少なく、11月から2月の時期に施設利用を増やす工夫が必要ではないかと考える。 事業収入に関して、昨今の物価高騰の折、参加費用等を増額させてもよいように思われる。							

No.	項目		内容	確認方法 及び 頻度		市評価	備考
11	黒川里山 センター施 設運営	庶務業務	・視察者や見学者への対応、各種問合せ、苦情、要望等への適切な改善措置及び報告。重要事項については随時報告。	月次報告書	定期（月次）	適合	
12			・収入集計及び使用状況表の作成、保管	月次報告書	定期（月次）	適合	
13		利用促進業務	・市広報や報道機関、地域ミニコミ誌等への情報提供	年間報告書	定期（年次）	適合	
14		貸出業務	・黒川里山センターの利用予約受付、許可	月次報告書	定期（月次）	適合	
15			・利用者への設備、備品等の貸出	月次報告書	定期（月次）	適合	
16			・施設利用者との利用にかかる打ち合わせの実施	月次報告書	定期（月次）	適合	
17			・施設使用料、付属設備使用料の収納	月次報告書	定期（月次）	適合	
18			・施設利用者満足度調査（利用者アンケート）の実施	アンケート 報告書	定期（年次）	適合	【R5年度モニタリングで未実施だった項目】 R6年度内に実施済のため、適合
19		運営業務	・職員への接遇対応マナー教育研修の実施	-	随時	適合	
20			・ポスター・チラシの効果的な掲示・配布による認知度の向上	年間報告書	定期（年次）	適合	
21	・市内の事業者・市民との連携、ネットワークの構築。		年間報告書	定期（年次）	適合		
22	・ＳＮＳを活用した情報発信及び利用者による情報拡大大促進		年間報告書	定期（年次）	適合		

所見

A施設運営についても概ね良好である。

B概ね良好である。

C施設利用者満足度調査に関しては、R6年度内に実施済みということだが、その評価と改善方法についてのコメントの講評がない。PDCAを回し、次の事業に活かす視点が必要と思われる。

改善項目

A今年度からアンケートを実施しているが、アンケートの内容及び結果が不明であるため、次回からは報告いただきたい。

B特になし。

Ｃ施設利用者満足度調査の結果の振り返りをし、次期の事業に活かす必要がある。

総 評

A概ね計画通りに運営されていると評価できる。ただ、年々賃金が上昇傾向にあり指定管理者の経費等を圧迫している感がある。この点、サービスの低下を招かないために、自主事業の収入を増やすか又は指定管理者の管理不能経費として市所管課との協議も必要と思われる。

B特段問題はない。

子どもを対象にした事業については、充実した企画が展開されており、その親についてもサービス対象者として着実にファンを増やしているように思う。ただ、冬季の館内の利用者が少ないこともあり、近隣から来場する利用者層を獲得する工夫が必要かと思われる。